

平成29年度の
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと
当面の課題について

平成29年9月29日



一般社団法人 Jミルク
Japan Dairy Association (J-milk)

1. 地域別生乳生産量の動向

【生乳生産量予測の前提】

・北海道及び都府県の予測値は、平成 29 年 7 月までの生乳生産量データに基づき、気温や乳牛頭数等を説明変数とした予測モデル (ARIMA モデル) による推計値を基本に算出。なお、平成 29 年度の気温は、平年並で設定。

表 1-1 : 平成 29 年度の地域別生乳生産量 (見通し)

	全 国		北海道		都府県	
	前年比	前年比	前年比	前年比		
4 月	617	97.8%	321	97.7%	296	97.9%
5 月	645	98.8%	339	98.7%	306	98.8%
6 月	614	98.1%	328	97.4%	286	98.9%
7 月	610	96.7%	331	96.6%	279	96.8%
8 月	599	98.0%	329	99.6%	270	96.3%
9 月	578	98.8%	315	100.3%	263	96.9%
10 月	593	98.8%	320	100.2%	273	97.3%
11 月	574	99.1%	307	100.7%	267	97.4%
12 月	604	99.0%	324	100.5%	280	97.4%
1 月	615	99.4%	329	101.3%	286	97.4%
2 月	564	99.6%	300	101.1%	264	98.0%
3 月	631	99.5%	334	100.9%	297	98.0%
第 1 四半期	1,876	98.2%	988	98.0%	888	98.5%
第 2 四半期	1,787	97.8%	975	98.8%	812	96.7%
第 3 四半期	1,772	99.0%	951	100.4%	820	97.4%
第 4 四半期	1,810	99.5%	963	101.1%	847	97.8%
上期	3,663	98.0%	1,963	98.4%	1,700	97.6%
下期	3,582	99.3%	1,914	100.8%	1,668	97.6%
年度計	7,245	98.6%	3,877	99.5%	3,368	97.6%

※表は、着色部分が実績、白枠部分が予測 (平成 29 年 8 月以降)。以下、全て同様。

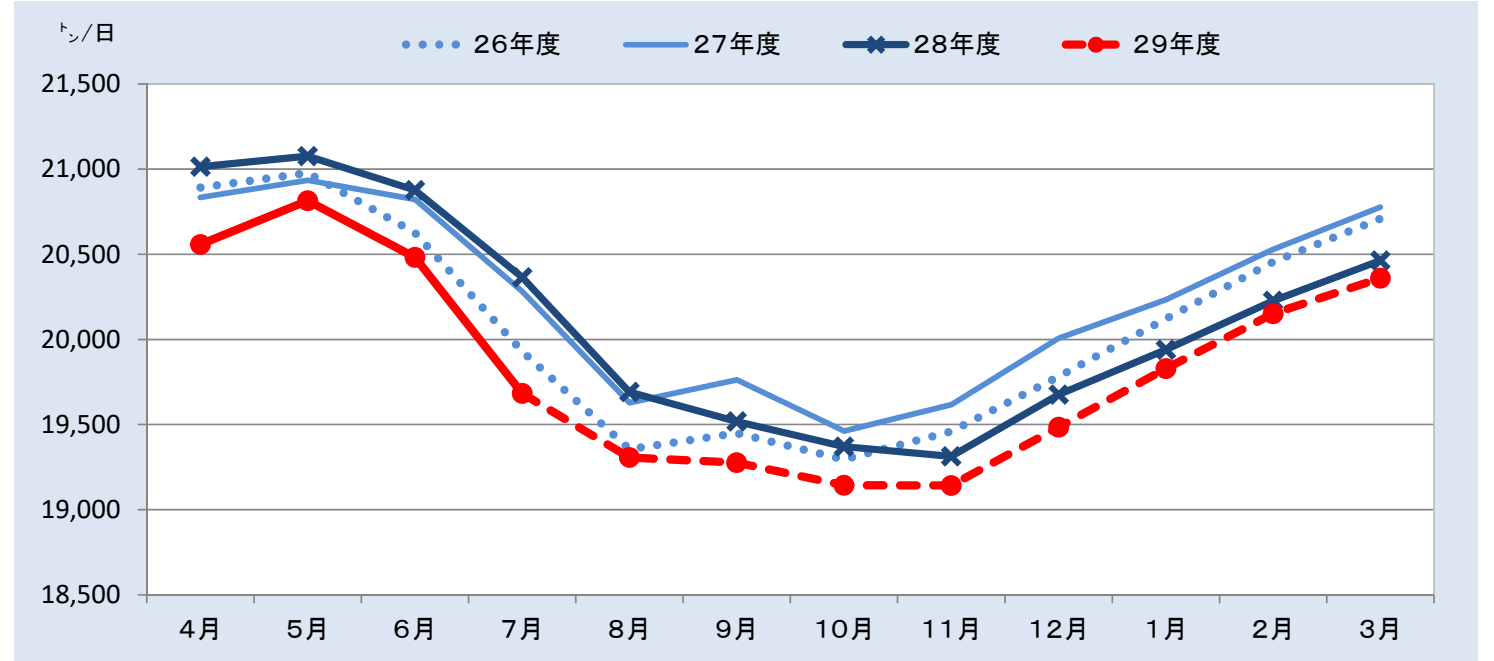
【生乳生産量の見通し】

29 年度の生乳生産量は、北海道ではほぼ前年並み (3,877 千トン・前年比 99.5%) であるものの、都府県では前年度を下回り (3,368 千トン・同 97.6%)、その結果、全国の生乳生産量は前年度を下回る (7,245 千トン・同 98.6%) 見通しである。

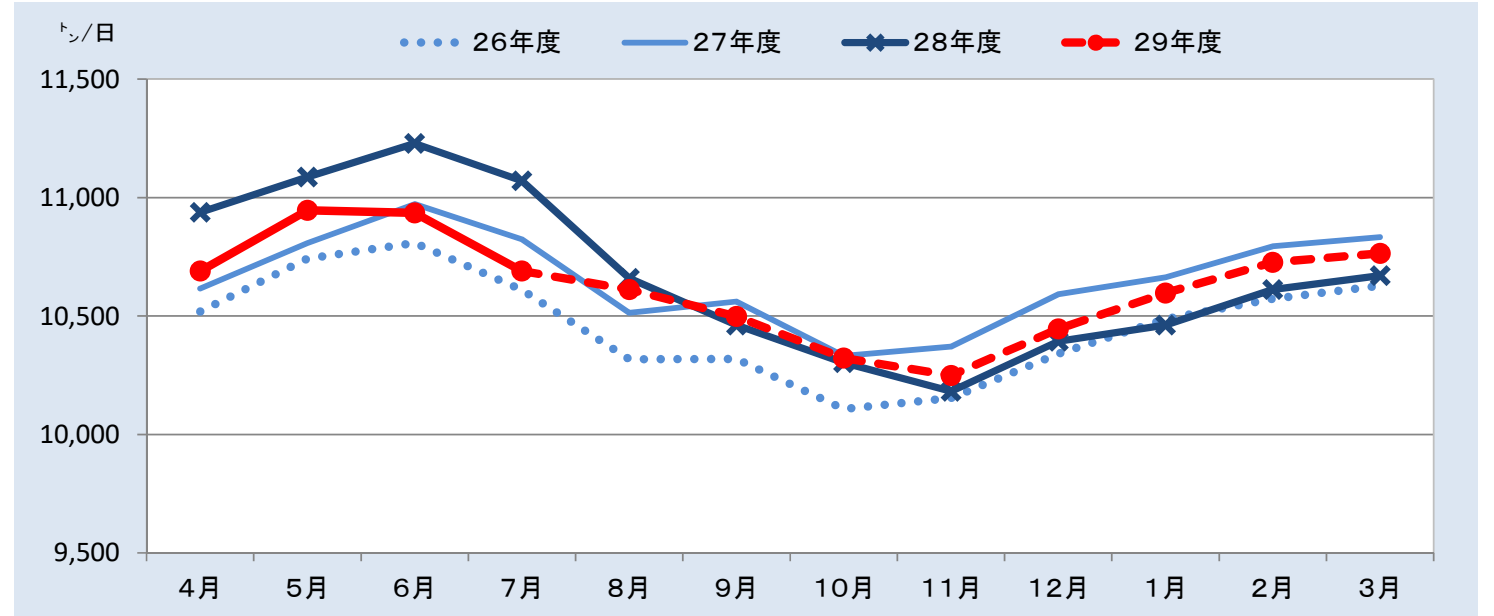
※全国 7,245 千トン・98.6% (前回見通し 98.4%)、

北海道 3,877 千トン・99.5% (同 99.6%)、都府県 3,368 千トン・97.6% (同 97.1%)

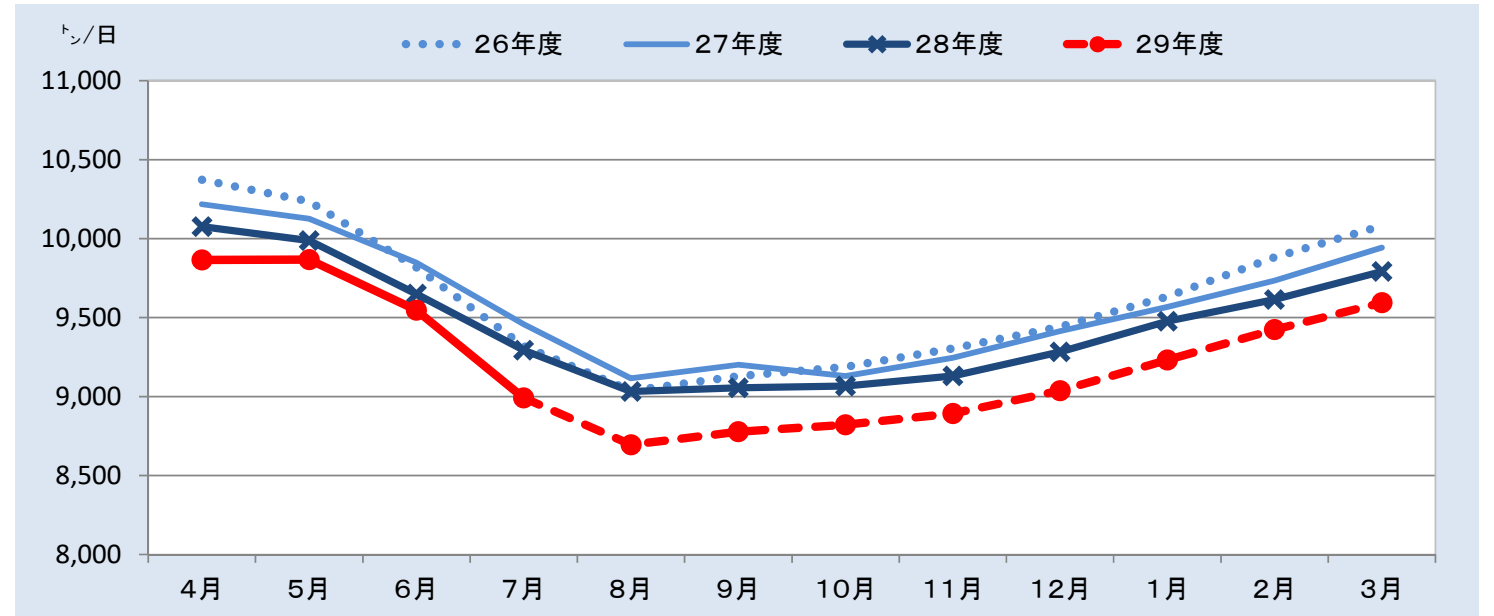
グラフ 1-1 : 全国の生産量 (日均量)



グラフ 1-2 : 北海道の生産量 (日均量)



グラフ 1-3 : 都府県の生産量 (日均量)



2. 牛乳等生産量の動向

【牛乳等生産量予測の前提】

・各々の予測値は、平成 29 年 7 月までの生産量データに基づき、気温や平日日数等を説明変数とした予測モデル (ARIMA モデル) による推計値を基本に算出。なお、平成 29 年度の気温は、平年並で設定。

表 2-1 : 平成 29 年度の牛乳等生産量 (見通し)

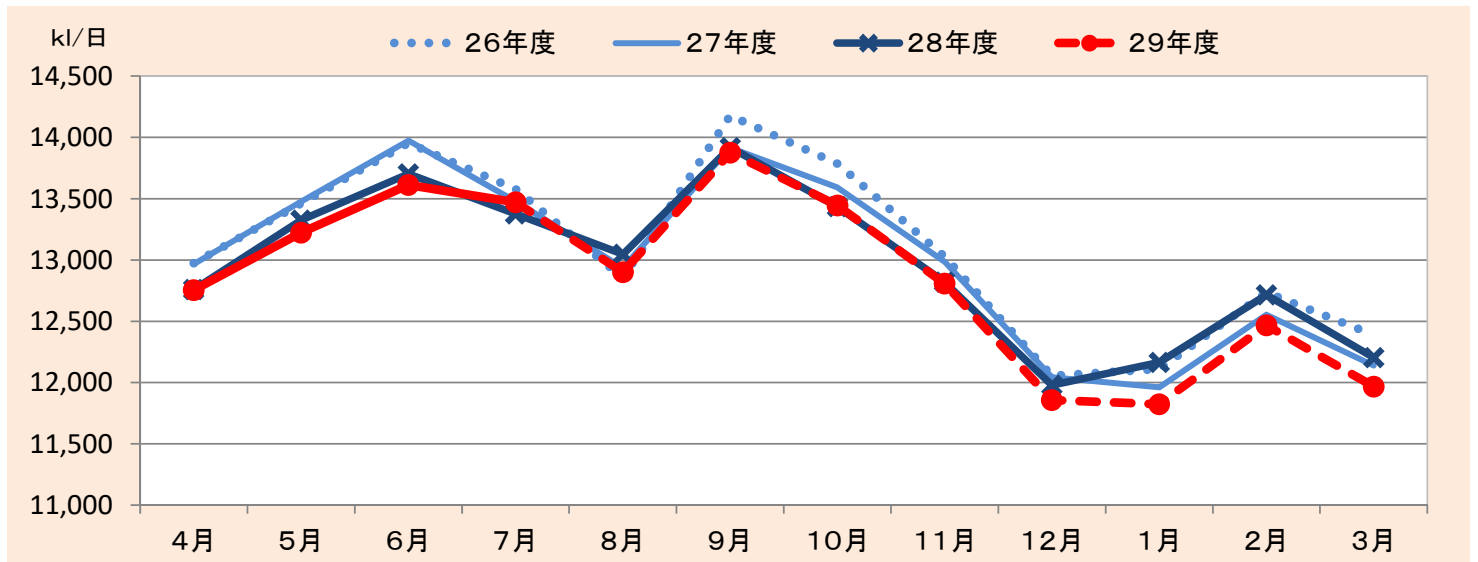
	牛乳類		牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4月	383	100.0%	249	101.5%	8	95.3%	29	104.9%	97	95.2%	92	94.9%
5月	410	99.2%	267	100.3%	8	90.6%	30	102.6%	105	96.5%	96	96.5%
6月	408	99.4%	267	100.2%	8	104.1%	30	102.2%	104	96.2%	93	98.5%
7月	418	100.7%	266	102.6%	7	94.9%	32	103.8%	112	96.1%	93	100.1%
8月	400	98.9%	247	99.9%	8	95.9%	32	101.5%	113	96.3%	90	99.0%
9月	416	99.7%	268	100.3%	8	98.3%	30	100.4%	110	98.1%	90	100.8%
10月	417	100.1%	272	100.3%	8	97.8%	30	102.1%	107	99.1%	92	100.2%
11月	384	99.9%	257	100.2%	8	94.7%	27	101.4%	92	99.2%	87	100.1%
12月	368	99.0%	245	100.2%	9	94.2%	26	100.6%	87	95.9%	85	100.2%
1月	367	97.2%	245	98.0%	8	90.1%	27	96.8%	86	95.7%	88	100.4%
2月	349	98.0%	236	98.7%	8	90.7%	25	97.4%	80	97.2%	85	102.9%
3月	371	98.1%	243	98.9%	8	92.7%	28	97.6%	92	96.7%	96	104.2%
第1四半期	1,201	99.5%	783	100.7%	24	96.2%	88	103.2%	307	96.0%	281	96.6%
第2四半期	1,234	99.8%	782	101.0%	23	96.4%	93	101.9%	336	96.8%	273	100.0%
第3四半期	1,169	99.7%	774	100.2%	26	95.5%	83	101.4%	286	98.1%	265	100.1%
第4四半期	1,087	97.8%	724	98.5%	24	91.2%	80	97.3%	258	96.5%	269	102.5%
上期	2,435	99.6%	1,565	100.8%	47	96.3%	181	102.5%	643	96.4%	554	98.2%
下期	2,255	98.7%	1,497	99.4%	50	93.3%	164	99.3%	544	97.3%	534	101.3%
年度計	4,690	99.2%	3,062	100.1%	97	94.7%	344	101.0%	1,187	96.8%	1,089	99.7%

【牛乳等生産量の見通し】

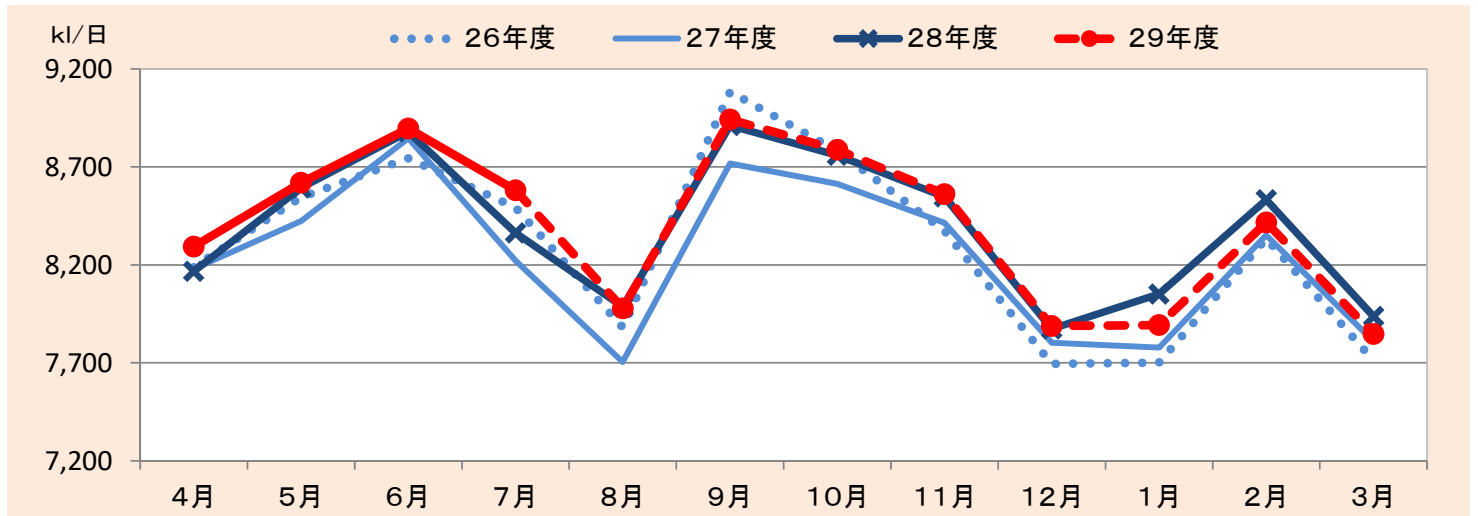
29 年度の牛乳等生産量は、「牛乳類」は前年をやや下回る (4,690 千 K1・前年比 99.2%) の見通し。「はっ酵乳」は、大きな伸びは一巡するものの、引き続き堅調な需要が見込まれ、通期では前年をやや下回る (1,089 千 K1・同 99.7%) 見通しである。

※牛乳類 4,690 千 K1・99.2% (前回見通し 99.0%)、牛乳 3,062 千 K1・100.1% (同 99.2%)、加工乳 97 千 K1・94.7% (同 92.8%)、成分調整牛乳 344 千 K1・101.0% (同 100.6%)、乳飲料 1,187 千 K1・96.8% (同 98.4%)、はっ酵乳 1,089 千 K1・99.7% (同 100.4%)

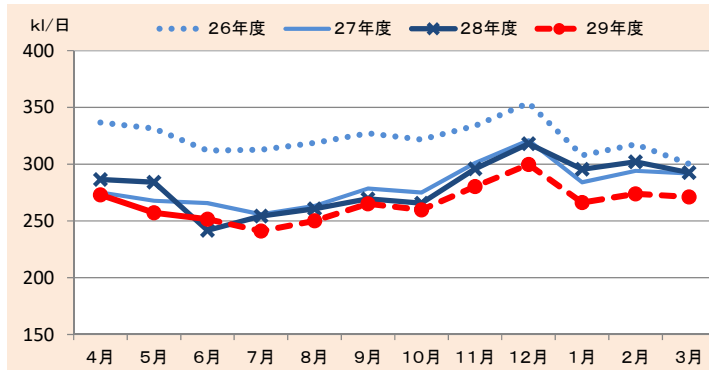
グラフ 2-1 : 牛乳類 (牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料) の生産量 (日均量)



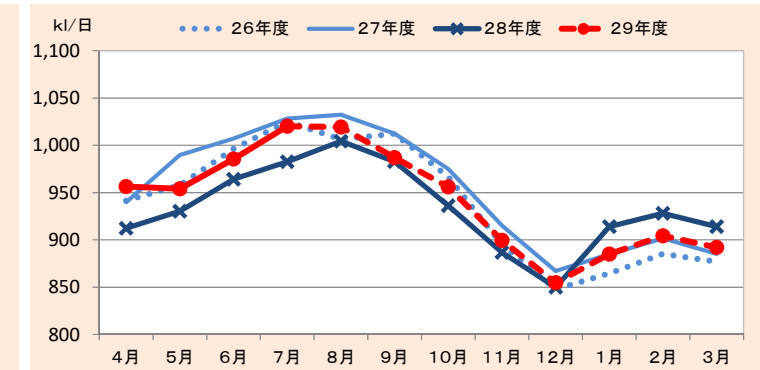
グラフ 2-2 : 牛乳の生産量 (日均量)



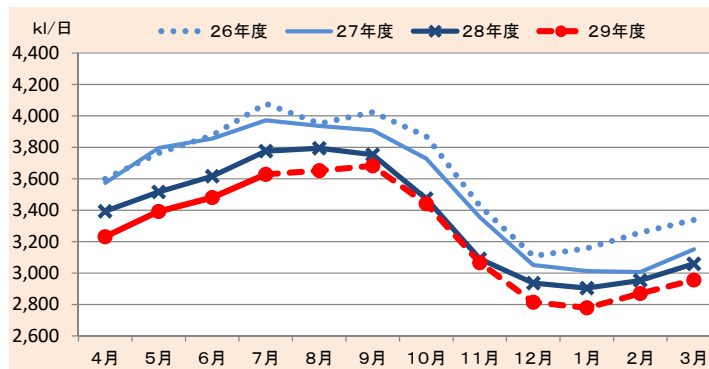
グラフ 2-3 : 加工乳の生産量 (日均量)



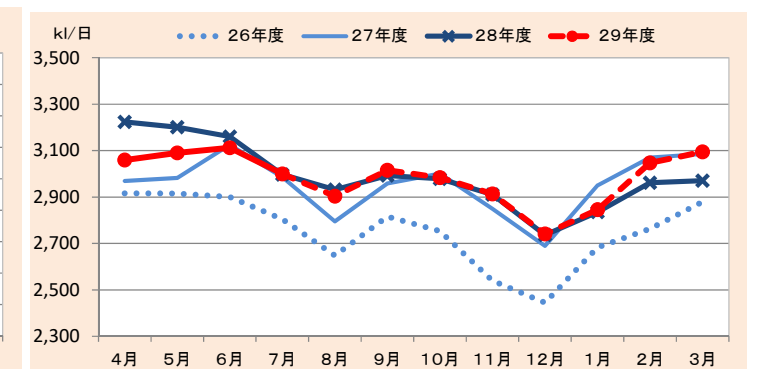
グラフ 2-4 : 成分調整牛乳の生産量 (日均量)



グラフ 2-5 : 乳飲料の生産量 (日均量)



グラフ 2-6 : はっ酵乳の生産量 (日均量)



3. 用途別処理量の動向

【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出(自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定)。
- ・飲用等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、生乳使用係数を乗じ算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と飲用等向処理量の差。

表3-1：平成29年度の生乳供給量及び用途別処理量（見通し）

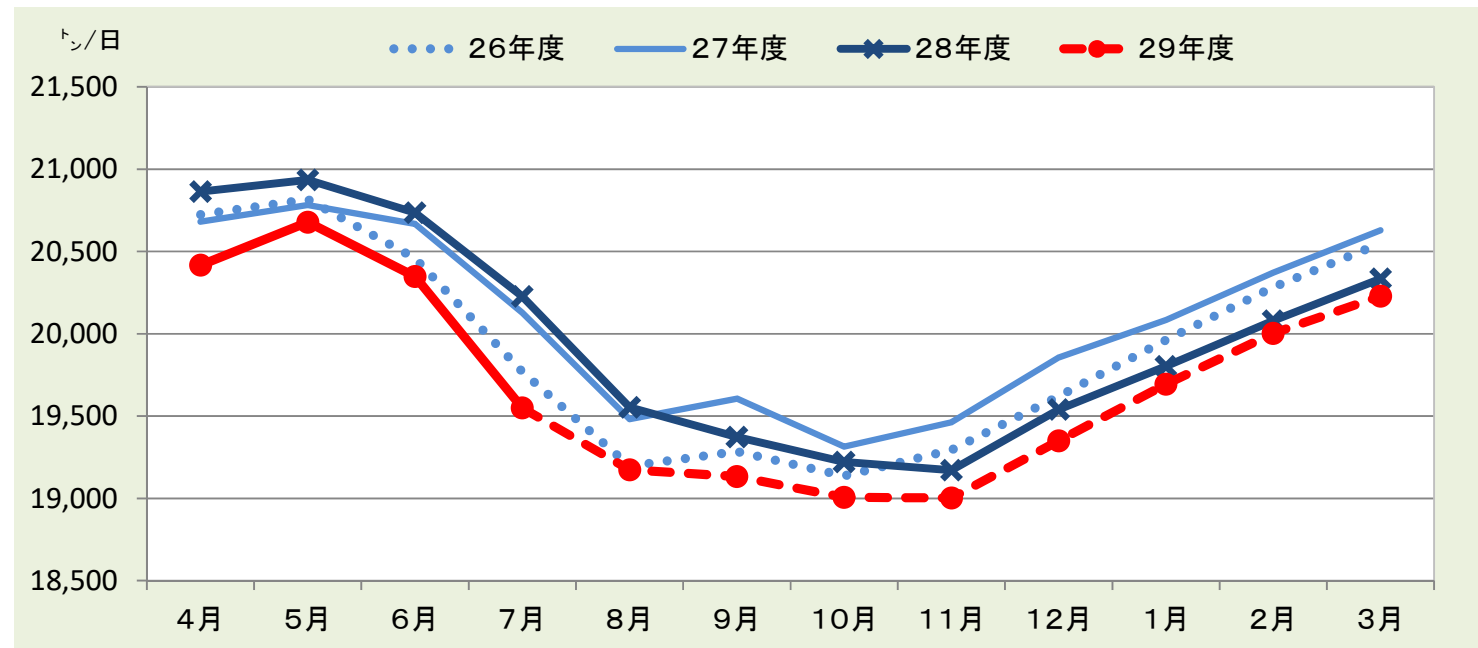
	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		飲用等向		乳製品向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	617	97.8%	4	93.6%	613	97.9%	332	101.3%	280	94.1%
5月	645	98.8%	4	97.3%	641	98.8%	356	100.5%	285	96.7%
6月	614	98.1%	4	95.9%	610	98.1%	354	99.7%	257	96.0%
7月	610	96.7%	4	96.9%	606	96.7%	355	101.1%	251	91.0%
8月	599	98.0%	4	97.0%	594	98.1%	336	100.7%	259	94.9%
9月	578	98.8%	4	98.4%	574	98.8%	359	101.1%	215	95.1%
10月	593	98.8%	4	92.9%	589	98.9%	360	101.2%	229	95.4%
11月	574	99.1%	4	98.0%	570	99.1%	338	101.1%	232	96.4%
12月	604	99.0%	4	98.7%	600	99.0%	320	100.9%	280	97.0%
1月	615	99.4%	4	99.2%	611	99.5%	325	98.0%	285	101.2%
2月	564	99.6%	4	99.3%	560	99.6%	309	98.7%	251	100.8%
3月	631	99.5%	4	100.1%	627	99.5%	325	98.9%	302	100.1%
第1四半期	1,876	98.2%	12	95.6%	1,864	98.3%	1,042	100.5%	822	95.6%
第2四半期	1,787	97.8%	13	97.4%	1,774	97.8%	1,049	101.0%	725	93.5%
第3四半期	1,772	99.0%	13	96.5%	1,759	99.0%	1,018	101.1%	741	96.3%
第4四半期	1,810	99.5%	12	99.5%	1,798	99.5%	960	98.5%	838	100.7%
上期	3,663	98.0%	25	96.5%	3,638	98.0%	2,091	100.7%	1,548	94.6%
下期	3,582	99.3%	25	98.0%	3,557	99.3%	1,978	99.8%	1,579	98.6%
年度計	7,245	98.6%	50	97.2%	7,195	98.6%	4,068	100.3%	3,127	96.6%

【用途別処理量の見通し】

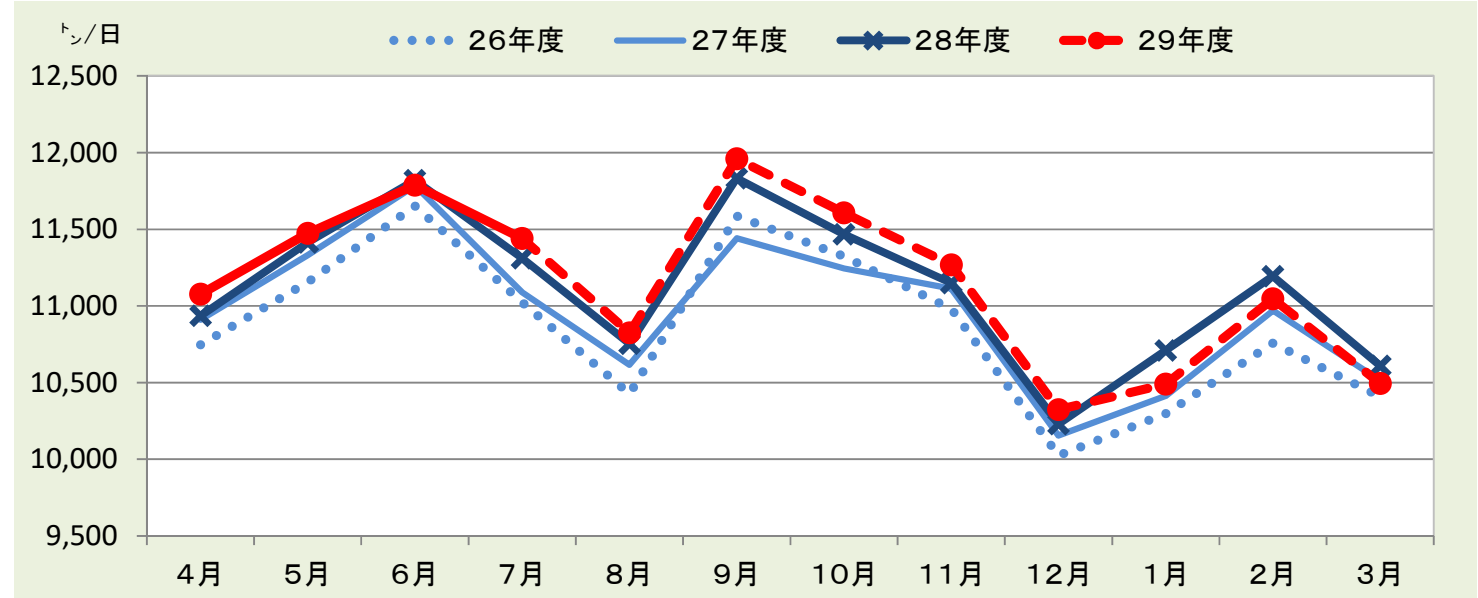
29年度の用途別処理量は、「生乳供給量」が前年度を下回る（7,195千トン・前年比98.6%）見込みのなか、「飲用等向処理量」は前年を上回る（4,068千トン・同100.3%）と見通され、その結果、「乳製品向処理量」は前年を下回る（3,127千トン・同96.6%）見通しである。

※生乳供給量7,195千トン・98.6%（前回見通し98.5%）、飲用等向4,068千トン・100.3%（同99.9%）、乳製品向3,127千トン・96.6%（同96.6%）

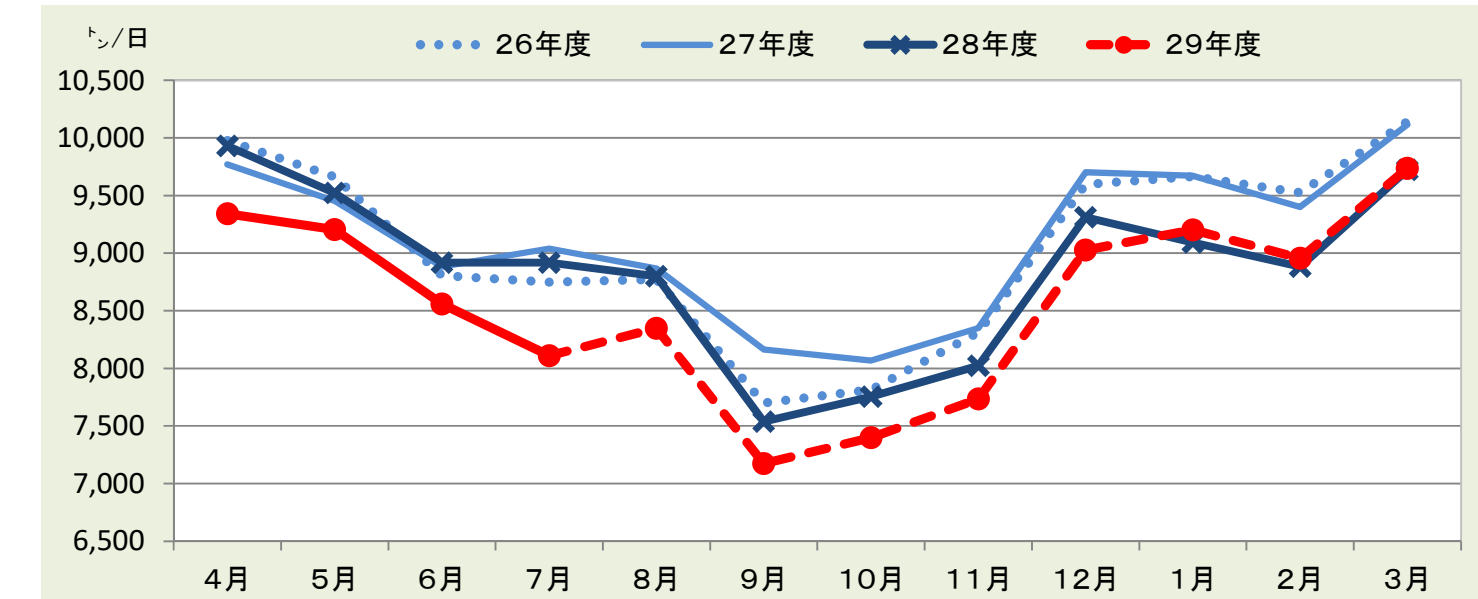
グラフ3-1：生乳供給量（日均量）



グラフ3-2：飲用等向生乳処理量（日均量）



グラフ3-3：乳製品等向生乳処理量（日均量）



4. 都府県の生乳需給の動向

【都府県生乳需給予測の前提】

- ・「移入量(道外移出量)」は、都府県不足量の補完と、北海道ブランド牛乳製造のための必要乳量等を基本に算出。
- ・「脱脂粉乳・バター等向処理量」は、「A-B-C」+「移入量」-「移出量」で算出し、過去5年間の最低数量や直近の需給状況等を加味して算出。

表4-1：平成29年度の都府県の需給（見通し）

	生乳供給量		飲用等向処理量		生クリーム等向・チーズ向		A-B-C	移入量(道外移出量)		移出量	脱脂粉乳・バター等向	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比		前年比	前年比		前年比	
4月	294	97.9%	279	100.9%	14	105.0%	2	25	121.5%	0	27	84.2%
5月	304	98.8%	303	100.6%	12	97.6%	-11	31	116.3%	0	20	95.5%
6月	284	99.0%	300	99.5%	11	98.6%	-27	39	104.5%	0	11	100.4%
7月	277	96.8%	299	101.0%	11	80.2%	-33	43	115.7%	0	10	72.0%
8月	267	96.3%	281	100.6%	11	88.0%	-25	41	125.7%		16	88.8%
9月	261	96.9%	299	99.9%	11	83.1%	-48	53	109.6%		5	83.8%
10月	271	97.4%	303	100.8%	11	87.7%	-44	52	115.5%		8	87.7%
11月	265	97.4%	284	100.4%	12	91.5%	-31	41	114.8%		9	82.3%
12月	278	97.4%	268	100.5%	13	90.4%	-3	30	112.8%		26	86.9%
1月	284	97.4%	274	99.0%	10	65.8%	-1	25	93.9%		24	97.3%
2月	262	98.0%	262	98.5%	7	63.5%	-8	24	86.5%		16	95.1%
3月	295	98.0%	272	98.0%	11	85.6%	-12	22	88.8%		34	96.7%
第1四半期	881	98.6%	882	100.3%	36	100.5%	-37	95	112.4%	1	58	90.7%
第2四半期	805	96.7%	878	100.5%	33	83.7%	-106	138	115.9%		31	81.7%
第3四半期	814	97.4%	855	100.6%	36	89.9%	-78	122	114.6%		44	86.0%
第4四半期	841	97.8%	808	98.5%	29	71.6%	3	71	89.7%		74	96.6%
上期	1,686	97.6%	1,760	100.4%	69	91.8%	-143	233	114.5%	1	89	87.3%
下期	1,655	97.6%	1,664	99.6%	65	80.7%	-75	193	104.0%		118	92.3%
年度計	3,341	97.6%	3,424	100.0%	135	86.0%	-218	425	109.5%	1	207	90.1%

【都府県の生乳需給の見通し】

29年度の都府県の生乳需給は、「生乳供給量」が前年度を下回る（3,341千トンの前年比97.6%）一方で、「飲用等向処理量」は比較的堅調な需要（3,424千トンの同100.0%）が見込まれる。その結果、北海道から都府県への「移入量（道外移出量）」は、需要期を中心に前年水準と比較して増加するものと見込まれる。

※生乳供給量3,341千トンの97.6%（前回見通し97.1%）、飲用等向3,424千トンの100.0%（同99.5%）、移入量（道外移出量）425千トンの109.5%（同109.9%）

5. 乳製品需給の動向

【脱脂粉乳・バター需給予測の前提】

- ・脱脂粉乳・バターの生産量は、脱脂粉乳・バター等向処理見込数量に製造係数（直近の動向等を反映）を乗じて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの推定出回り量は、平成29年7月までの推定出回り量データに基づき、代替乳製品の動向等を説明変数とした予測モデル（ARIMAモデル）による推計値を基本に算出。
- ・脱脂粉乳・バターの在庫月数は、前年度の一ヶ月平均消費量を基に算出。

表5-1：平成29年度の脱脂粉乳の需給（見通し）

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	期末在庫量		推定出回り量		
	A	前年比	B	前年比		C	D	月数	前年比	A+B+C-D
第1四半期	48.2	93.6%	32.6	97.2%	4.2	52.0	4.6	91.6%	33.0	99.4%
第2四半期	52.0	91.6%	23.7	87.2%	8.9	48.4	4.3	94.1%	36.3	105.0%
第3四半期	48.4	94.1%	27.7	93.0%	10.2	52.1	4.6	109.2%	34.3	102.2%
第4四半期	52.1	109.2%	33.6	102.3%	10.7	62.1	5.5	128.7%	34.3	100.1%
上期	48.2	93.6%	56.4	92.7%	13.1	48.4	4.3	94.1%	69.3	102.2%
下期	48.4	94.1%	61.4	97.9%	20.9	62.1	5.5	128.7%	68.6	101.1%
年度計	48.2	93.6%	117.7	95.3%	34.0	62.1	5.5	128.7%	137.9	101.7%

グラフ5：脱脂粉乳の推定出回り量及び在庫量（四半期毎）

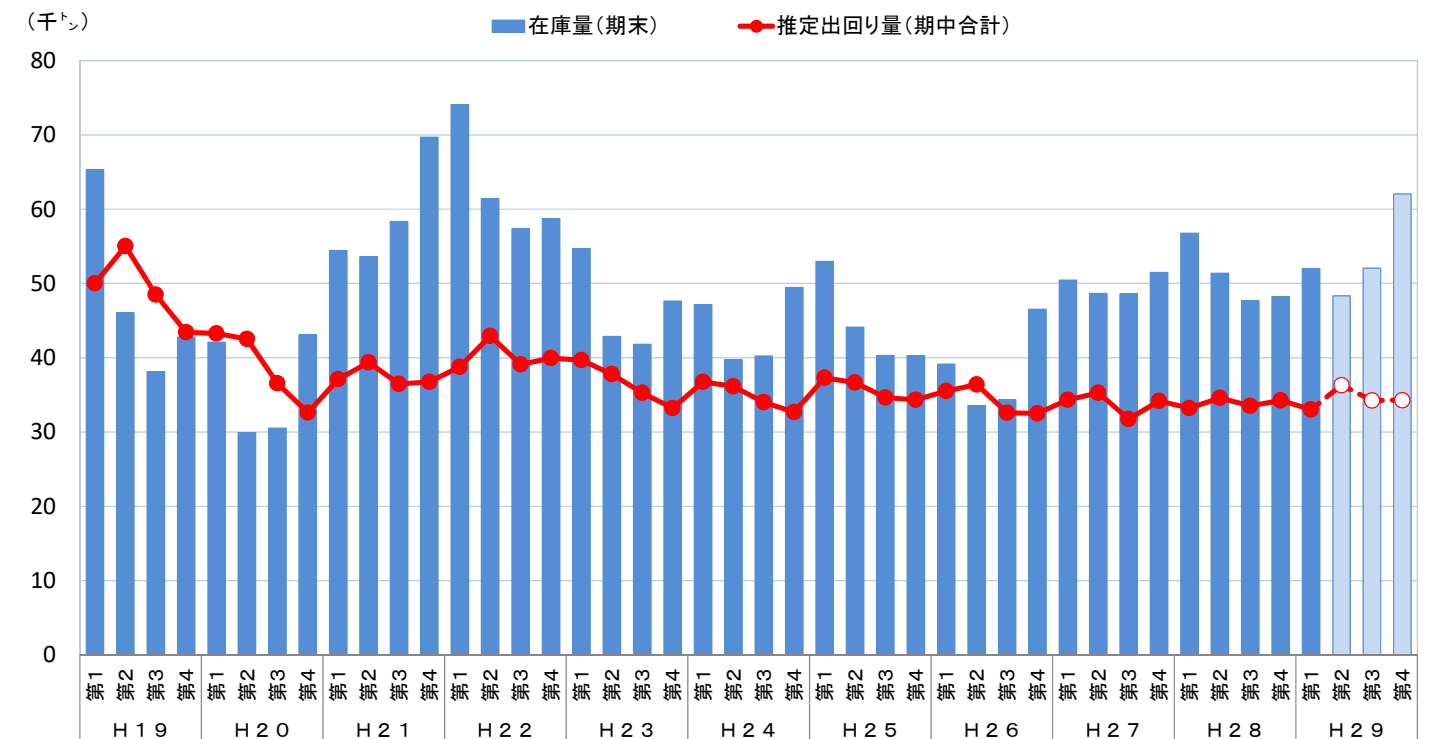
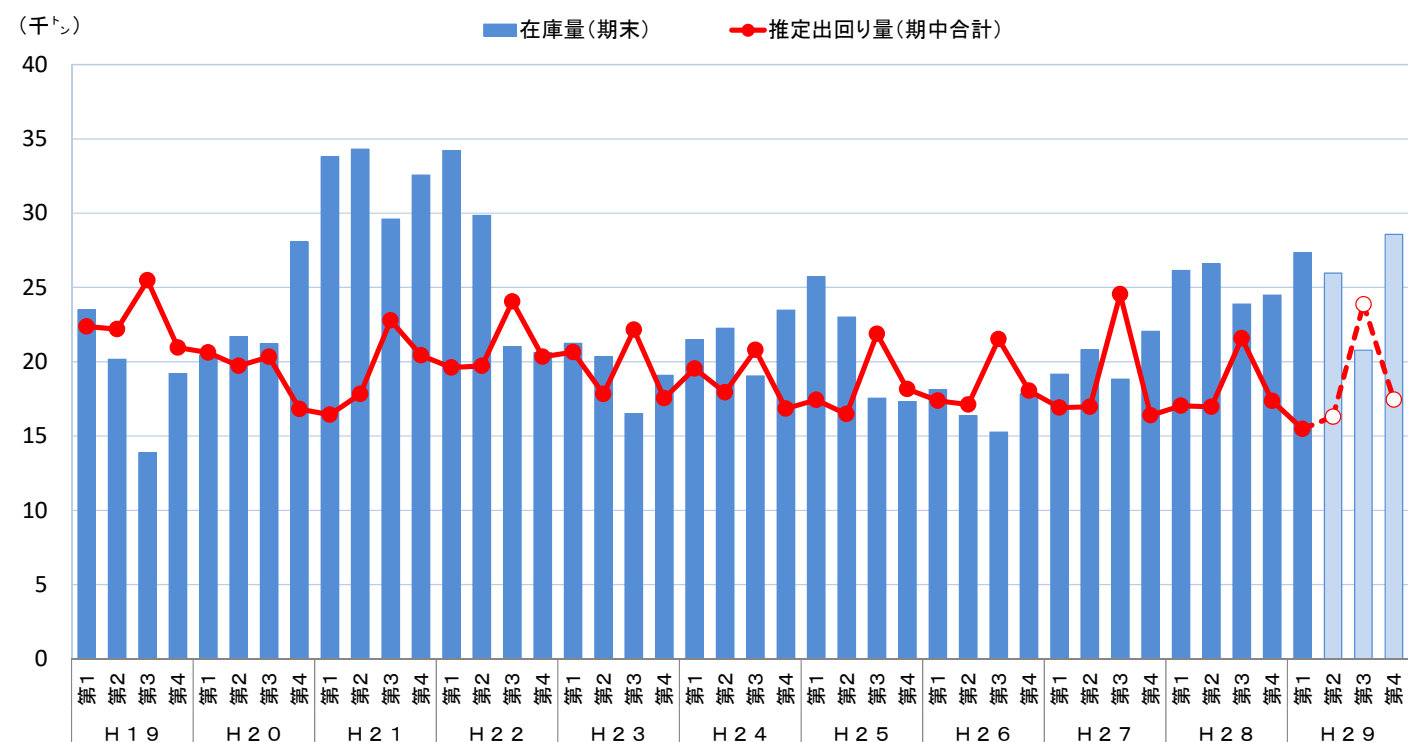


表6-1：平成29年度のバターの需給（見通し）

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	期末在庫量			推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比		D	月数	前年比	A+B+C-D	前年比
	第1四半期	24.5	111.0%	16.8		91.4%	1.6	27.3	4.5	104.5%
第2四半期	27.3	104.5%	12.2	84.7%	2.8	26.0	4.3	97.6%	16.3	96.2%
第3四半期	26.0	97.6%	12.9	92.9%	5.8	20.8	3.4	87.0%	23.9	110.7%
第4四半期	20.8	87.0%	17.4	102.3%	7.9	28.6	4.7	116.7%	17.5	100.6%
上期	24.5	111.0%	28.9	88.5%	4.3	26.0	4.3	97.6%	31.8	93.5%
下期	26.0	97.6%	30.3	98.1%	13.7	28.6	4.7	116.7%	41.3	106.2%
年度計	24.5	111.0%	59.2	93.1%	18.0	28.6	4.7	116.7%	73.1	100.3%

グラフ6：バターの推定出回り量及び在庫量（四半期毎）



【脱脂粉乳・バター需給の見通し】

脱脂粉乳については、29年度の生産量は前年度を下回る（117.7千ト、前年比95.3%）見通し。輸入売渡しとして、今後、29年度輸入予定数量34.0千トが売り渡される予定となっており、29年度末在庫量は62.1千ト（前年度末比+13.9千ト）と増加する見込みである。

バターについては、29年度生産量は前年度を下回る（59.2千ト、同93.1%）見通し。輸入売渡しとして、今後、28年度追加輸入残量及び29年度輸入予定数量の計18.0千トが売り渡される予定となっており、29年度末在庫量は28.6千ト（前年度末比+4.1千ト）と増加する見込みである。

※脱脂粉乳：生産量117.7千ト・95.3%（前回見通し94.0%）、在庫量62.1千ト・128.7%（同127.0%）、推定出回り量137.9千ト・101.7%（同101.1%）

※バター：生産量59.2千ト・93.1%（同93.1%）、在庫量28.6千ト・116.7%（同117.2%）、推定出回り量73.1千ト・100.3%（同100.1%）

6. 需給動向を踏まえた当面の課題と対応について

(1) 当面の生乳生産量維持への取り組み

29年度の生乳生産量について、前回公表した見通し（7月25日公表、気温が高い場合の予測値）に対して、北海道では7月は猛暑の影響で落ち込んだが、8月は平年よりも気温が低かったこともあり予測水準に回復。今後、生産の主力となる2~4歳の乳用牛頭数が前年度水準に回復することや、本年度産サイレージ等の給与開始による増産が期待されることから下期にかけて前年を超える見込みであるものの、通期では前年をやや下回る見通しである。

都府県では、7月は猛暑により予測水準となった。8月に入り、東日本では連続した降雨等により落ち込みが少なかった一方で、西日本では厳しい暑さが続いたことや今春の分娩頭数が前年を下回ったことにより予測よりも落ち込んだ。東日本の冷涼な天候により都府県全体では予測よりもやや上回ったが、通期では前年を下回る見通しである。

こうした状況下、今後、猛暑や降雨多湿等による乳用牛への影響が、徐々に顕在化する懸念もあり、酪農生産現場では引き続き、適切な飼養管理に努め、生乳生産の減少を最小限に留める取り組みが肝要である。

(2) 飲用牛乳等の安定供給への取り組み

例年9月は、学校給食も再開し、牛乳等需要が最も多い時期である一方で、都府県の生乳生産は暑熱等のため減少することから、北海道からの道外移出乳を増やすことで、都府県の飲用需要を補完しているところ。

8月下旬に発生した台風停滞に伴い太平洋航路が5日間連続して欠航した影響により、道外移出乳が一時的に不足したものの、全国の業界関係者の努力により、飲用牛乳市場の混乱を最小限に抑えることができた。

都府県の生乳生産の減少が見込まれる中、牛乳等需要が堅調であることから、生乳需給は逼迫基調で推移する見通しであることを踏まえ、今後とも、酪農乳業関係者はより緻密な情報共有に努めるとともに、業界一体となり牛乳等の安定供給に努めることが重要である。

(3) 乳製品安定供給への取り組み

脱脂粉乳・バターの29年度生産量は、前年を下回って推移する見込みであるものの、酪農乳業一体となって乳製品間の弾力的な供給体制に取り組んでいることに加え、国が本年5月に決定した29年度の輸入予定数量（脱脂粉乳34.0千ト、バター13.0千ト）が、今後、順次売り渡される予定であることから、本年度の乳製品需給は安定して推移する見通しである。

こうした状況を踏まえ、国及び酪農乳業関係者は、今夏の天候要因による生乳需給への影響を注視するとともに、市場に対して適時的確な需給情報の提供に努めることが必要である。